

# 将来の担い手を育む地域社会の役割

～目的と手段を明確にした既存活動の工夫改善～

大野郡白川村教育委員会

## 1. はじめに

白川村では学園の教育目標である「ひとりだち」に向け、学園・家庭・地域がそれぞれに責任をもって将来の担い手を育てていけるよう、平成25年10月にコミュニティ・スクールをスタートさせた。

平成23年度、小学校2校の統合を機に施設一体型小中一貫校をスタートさせた頃、村で唯一の学校となった白川郷学園に対する村民の期待は大きく、子どもの教育の責任と役割の多くは学園（教職員）に集中していた。しかし、村の課題である人口減少、継承者不足、更には予測困難な未来に向かう子どもたちの将来について考えるなかで、学園のみならず家庭はもちろん地域も共に子どもたちの教育に関わっていくことの重要性を感じ、現在は村全体で将来の担い手を育てていくことを進めている。

## 2. 目的と手段の明確化

### (1) 学校運営協議会による願いの共有化

コミュニティ・スクールをスタートさせる準備段階で最初に行ったことは、「どんな白川っ子を育みたいか」といった熟議である。学園・保護者・地域が共に思いを出し合い、それぞれが願っている白川村の子ども像を話し合うなかで共通の姿が見えてきた。具体的な姿としては多々あるが、学園の教育目標「ひとりだち～自立・共生・貢献～」と一致した。更に家庭や地域では何をすべきかなども話し合い、担い手を育てる目的と手段が明確となった。



この段階での大きな成果は、熟議による目的と手段の明確化ではあるが、更なる成果として、学園・保護者・地域が共に熱く語りあえたこと、それぞれが当事者意識をもつきっかけとなったことである。

### (2) 社会教育関係団体による願いの共有化

コミュニティ・スクールがスタートした翌年には、社会教育関係団体の共通目標も「人とのつながりがある地域力向上 将来の担い手を育てる」と掲げ、地域の中での担い手育てを推進した。更に平成30年度には、社会教育関係団体の全委員を招集した、社会教育推進会議を開催。全委員で願い（目的）を共有し、願いに向けたそれぞれの団体の活動（手段）を具体化するための場である。これは、輪番制等で委員交代が頻繁にある団体等でも、目的と手段を明確にした活動が取り組み、短い任期のなかで充実した活動ができたといった成果もあがっていた。また、頻繁な委員交代をプラスに考え、より多くの村民にいち早く担い手育ての取り組みを広める手段としても有効な場であると考えている。



### 3. 既存活動の工夫改善

小さな村では委員の掛け持ち等はよくあることであり、村民の多くは大変多忙である。そのため、担い手育てに向けた活動を新たに実践することは大きな負担である。また、受動的な活動になってしまえば、担い手育てに重要な「大人の主体的な姿を見せる」ことにもつながらない。

そこで、担い手育ての活動は、新規ではなく既存活動の「ちょこっと工夫改善」とした。更に担い手育ての4つのポイントを提示し、無理のない工夫改善から始めることを進めた。

ともにはぐくむ

白川村の担い手育て【地域・家庭】

〇〇のおじちゃんとお話すとめっちゃおもしろい	<b>① 一緒に活動する</b>	〇〇のおばちゃんたちと一緒に掃除したら楽しかったわ	〇〇のおじちゃんに注意された。教えてもらった。	<b>② 声をかける</b>	〇〇のおばちゃんに褒められた。認められた。
------------------------	------------------	---------------------------	-------------------------	----------------	-----------------------

これが「担い手育て」です！

この蓄積が大切です 偶然や自然ではなく意図的に！

仕事をもらってやりきった。人の役に立てた。	<b>③ 役や場をあたえる</b>	初めて挑戦することができた。成長できた。	〇〇のおじちゃんみんなを楽しませる姿は最高！	<b>④ 大人が楽しむ真剣に</b>	〇〇のおばちゃん真剣に活動している姿はかっこいい！
-----------------------	-------------------	----------------------	------------------------	--------------------	---------------------------

#### (1) 負担のない行事の見直し

各地区の女性会では、これまで会員のみで行っていた行事に子どもたちを誘い、一緒に活動することを取り入れた。雑巾縫い作業、神社掃除、花壇の整備、施設清掃、消火訓練など、子どもたちと一緒に活動するなかで、たくさんの会話を増やしている。また、負担にならないよう年間1つ程度の行事のみ一緒に活動している。行事は固定されておらず、その年の役員のアイデアで決まるため、大人も主体的に取り組み、子どもたちのためにどんな体験の場を作れるか楽しんで考えているように見え、大人の姿にも担い育てでの成果が感じられる。



#### (2) 他団体との連携

小さな地区では、子ども会や女性会、公民館運営委員会などの単体での活動が困難なため、それぞれの団体が連携して様々な行事を工夫して行っている。どの団体も共通の願いを理解しているため、企画の時点で子どもたちの活躍の場や挑戦の場をどのように設けるか具体的に話し合われている。また、行事のなかで見られる子どもたちの良さにも多くの大人が気づき、声をかけられるようになってきといった声もあり、地区で地区の子を育て担い手育ての成果が感じられる。



### 4. 今後の課題

現在は社会教育推進会議の企画運営を社会教育主事が主体となって開催しているが、持続可能な地域社会づくりのためにも、今後は社会教育委員会を主体とした取り組みに移行していきたい。